

渋谷区環境基本計画 2023（素案）に関するパブリック・コメント実施結果

1 実施期間

令和4年12月15日（木）～12月28日（水）

2 提出件数

意見総数：13件

※複数のご意見をお寄せいただいたものがあるため、意見総数と提出者の合計人数は一致しません。

提出方法	人数	件数
郵送	0	0
持参	1	4
FAX	0	0
電子メール	0	0
LINE	8	9
合計	9	13

3 提出された意見及び区の考え方

	意見概要	区の考え方
1	<p>ZEH、ZEB 化等の推進には、省エネルギー機器に加え、創エネルギー機器も有効であることから、以下のとおり変更することを提案します。</p> <p>「断熱化、創エネルギー機器である太陽光発電や家庭用燃料電池システム、高効率コージェネレーションシステム（熱電供給システム）、太陽熱利用システムや省エネルギー機器の導入等を促します。」</p>	<p>ZEH、ZEB 化には省エネ及び創エネ機器の導入が有効であると認識しており、導入を推進してまいります。</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、計画では、計画素案の文言を以下のとおり変更します。</p> <p>「住宅や事業所におけるエネルギー管理システム（HEMS、BEMS 等）の導入、断熱化、<u>各種の創エネルギー機器及び省エネルギー機器の導入等を促します。</u>」</p> <p>※下線部が、計画素案からの変更点です。</p>

<p>2</p>	<p>災害時における非常用電源として、蓄電池・電気自動車と、再生可能エネルギー設備を含む創エネルギー機器(太陽光発電、家庭用燃料電池、高効率コージェネレーション(熱電供給システム))をセットで利用することが有効であることから、以下のとおり変更することを提案します。</p> <p>「創エネルギー機器である太陽光発電や家庭用燃料電池、高効率コージェネレーションシステム(熱電供給システム)と蓄電池・電気自動車が、災害時に非常用電源として利用できることを区民及び事業者に周知します。」</p>	<p>災害時において、創エネルギー機器を含む再生可能エネルギー設備が有効であることを、引き続き、区民及び事業者へ周知してまいります。</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、計画では、計画素案の文言を以下のとおり変更します。</p> <p><u>「創エネルギー機器である太陽光発電や家庭用燃料電池、高効率コージェネレーションシステム(熱電供給システム)、蓄電池・電気自動車が、災害時に非常用電源として利用できることを区民及び事業者へ周知します。」</u></p> <p>※下線部が、計画素案からの変更点です。</p>
<p>3</p>	<p>区民や事業所等へ利用を促している再生可能エネルギーの利用を含む創エネルギー機器について、区施設においても率先して積極的な活用を図るべきであることから、以下のとおり変更することを提案します。</p> <p>「①区施設における創エネルギー機器等の導入促進</p> <p>区施設において、計画的な省エネルギー改修の実施、電動車の導入などによりエネルギーの効率的利用を徹底するとともに、創エネルギー機器である太陽光発電や家庭用燃料電池、高効率コージェネレーションシステム(熱電供給システム)の導入、再生可能エネルギー電力・廃棄物発電による電力の調達を進めます。」</p>	<p>区有施設における再生可能エネルギー等の導入に、引き続き率先して取り組んでまいります。</p>
<p>4</p>	<p>「4-1-2 暮らし・事業活動の脱炭素化(42頁)」の施策③との整合性を図るとともに、災害時において、再生可能エネルギーの利用を含む創エネルギー機器がエネルギー源の確保に有効であることから、以下のとおり変更することを提案します。</p> <p>「●地産再生可能エネルギー電力の区消推進と災害時のエネルギー源確保の推進</p> <p>区内における再生可能エネルギー電力の活用を促進していくため、まずは公共施設において区内や全国各地で生産される再生可能エネ</p>	

	<p>ルギー電力の活用を進めるとともに、区民、事業者に向け、再生可能エネルギー電力の選択を促す普及啓発を進めます。</p> <p>また、公共施設の立替え等に際し、ZEB化、創エネルギー機器の利用と災害時のエネルギー源の確保について導入を検討するとともに、公共施設を拠点に確保したエネルギーを災害時に近隣の住宅・事業所で活用する仕組みなど、新しい技術の導入について調査・研究を進めます。」</p>	
5	<p>渋谷区環境基本計画 2023(素案)に家庭ごみの有料化が明記される可能性があるかと区議よりお話がありました。</p> <p>そもそも有料化しなければならないほど、渋谷区の税金はないのでしょうか。</p>	<p>ごみの減量は、最終処分場の延命化やごみの焼却等により発生する二酸化炭素の排出削減等のため急務です。家庭ごみ収集の有料化は、ごみの減量効果が認められることから検討を進めるものであり、新たな財源確保が目的ではありません。</p>
6	<p>学校の教育から変えていくべきだと思います。</p> <p>ごみの分別だったり、なぜ分別が必要なのかであったり、コンポストなどの取り組みも学校で行うのがいいと思います。</p>	<p>日常の学校生活の中で、子どもたちに、ごみの分別などを呼びかける環境行動の実践を促してまいります。また、学校におけるコンポストの取組については、現在実証中のため、実証結果を踏まえ検討してまいります。</p>
7	<p>可燃ごみの中の生ごみを分別対象にして欲しい</p>	<p>ごみの分別は、分別する手間と、分別が環境に及ぼす効果等を総合的に勘案して実施すべきものであり、ただちに生ごみを分別対象にする考えはございません。</p>
8	<p>リニアエコノミーに向けて、生ごみをコンポストするシステムの導入を希望します。生ごみをコンポストする利点として、</p> <p>①加熱する際のエネルギーを減らすことができる</p> <p>②ゴミの移動や重さが楽になる</p> <p>③畑などの優良な資源になる</p> <p>などが挙げられます。</p> <p>大都市の渋谷区が率先してやることで、アドバンテージになりうると思います。すてきな街になるようにご検討お願いできますか？</p>	<p>コンポスト容器や生ごみ処理機のあっせんを実施し、生ごみの減量を推進してまいります。</p>

9	窓枠を金属サッシではなく樹脂に変更促進する施策をして欲しい。	広く普及させる方法を見極めたうえで、検討課題としてまいります。
10	渋谷区から出るゴミの半量は事業者ゴミ。飲食店から出る生ゴミについて、コンポストの導入がもっと進んだら良い。導入が進むためには、情報を得る機会と身近な実例が必要。一定期間の機器無償レンタルがあれば、実感を得ることができ、また、知合いの飲食店に情報提供もできる。	事業者系ごみの減量について、区がどのようなことができるかについての研究は、今後の課題としてまいります。
11	太陽光パネルの設置について いま東京都では太陽光パネルの設置について補助金が出ると聞きますが、実際に戸建の住宅にパネルをつけたときに、どのくらいの効果になるのか？サイズもあると思いますが、一枚でどれくらい熱量を生産できるのか？メーカーによっての比較例など、透明性を持って表示していただくとわかりやすいと思います。 その表示によって、投資をしても安心した形で設置できると思います。	太陽光パネルの導入に関する情報については、東京都に情報提供するよう申し入れるとともに、区としても情報提供に努めます。
12	毎日大勢の人々が行き交う街であることを利用して、スクランブル交差点やその他周辺のビルの液晶広告などをジャックし、気候変動に対して個人でどのようなアクションが出来るのかをわかりやすく端的に（脅す形でなく）伝えてほしいです！ 1.再エネ 100%の電力会社にパワーシフトをする 2.自動車を使わない移動手段を選択する 3.肉の消費量を減らす 4.生ごみを堆肥化するなど。	区民等及び事業者の意識を変え、行動につなげていくためのより効果的な情報発信、広報に努めてまいります。

<p>13</p>	<p>ごみのリサイクルについては、ごみを出さない方向性を考えていただきたいです。</p> <p>例えば、バルクショップを斡旋して、容器持参で買い物することを当たり前にする。</p> <p>あるいは、渋谷区にあるスーパーが連携して「Loop」サービスを取り入れる。リターナブル容器の活用を視野に入れてください。</p> <p>気候危機を止めるには、「リサイクル」では間に合いません。渋谷区のような斬新な街が、ビッグな計画にチャレンジしてくれると、後に続く街が出てくるはずですよ。みんなで頑張ってください！</p>	<p>ごみとなるものをできる限り発生させない社会を目指し、発生抑制（リデュース）・再使用（リユース）等、3Rについて、区民への情報提供のほか、区民が参加しやすいリユースの仕組みを整えていくとともに、仕組みの定着に向けた広報の催しを検討してまいります。</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、計画では、計画素案の文言を以下のとおり変更します。</p> <p><u>「区民が参加しやすいリユースの仕組みを整えていくとともに、仕組みの定着に向けた広報の催しを検討します。」</u></p> <p>※下線部が、計画素案からの変更点です。</p>
-----------	---	---